

柿 生 文 化

平成23年1月18日
川崎市立柿生中学校内
柿生郷土史料館 情報・研究
第31号

と ん び り と きん せい むん じょう

豊臣秀吉御禁制朱印状 初公開 柿生郷土史料館
— 特別展開催 —

豊臣秀吉は、天下統一 間近の小田原攻めを前に天正18年(1590年)4月、小田原周辺地域の有力者に秀吉の朱印が押された御禁制(ごきんせい)禁ずることを人々に示した文書を送りました。その一枚が上麻生の小島家に大切に保管されています。

内容は、都筑郡麻生郷の王禅寺村・古沢村・黒金の郷・石川の郷・三輪の郷・荏田の郷・片平の郷・大堀の郷・万福寺村の9か村に対して①軍勢の兵士は、一般の人々に乱暴をしない。②放火をしない③地元の人や農民に道理に合わないことをしない。などの3ヵ条を出し、違反したら厳しく罰することが記してあります。

この大変貴重な文書が、この度、柿生郷土史料館で公開されることになりました。

特別展 日時

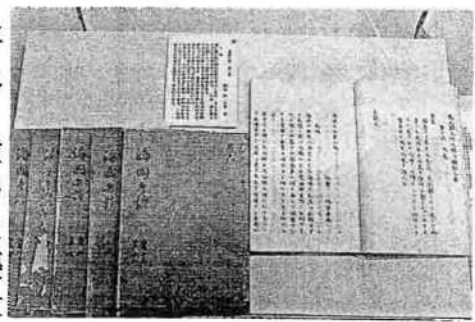
(期日) 2月6日(日)・13日(日)・20日(日) (時間) 10:00~15:00

坂本竜馬が知った海外情報

幕末、竜馬の心を維新へ
向けさせたものは何か

昨年、テレビの大河ドラマで「竜馬伝」が放映されました。いったい幕末の下級志士たちがなぜ新しい日本をつくろうとしたのか、その思いの源泉は何だったのでしょうか。そのヒントとなる2冊の書籍を紹介します。

一つは、柿生郷土史料館に展示されている林子平の『海国兵談(かいこへいだん)』です。この本が発刊されたのは寛政3年(1791年)です。当時、さかんに北海道周辺にロシア船が出没し、日本に開国や通商を求めてきました。林子平はこの書のなかで江戸湾への異国船侵入の可能性を指摘し、周囲を海に囲まれた日本がそれにふさわしい防衛体制を作ることを目指し、オランダ船の装備や構造を紹介し海軍を充実し大砲を改善し沿海に配備することを主張しました。



(林子平の「海国兵談」)

これに対し老中の松平定信は、これを幕府に対する批判の書ととらえ、この本と版木(本の原板に板に文字彫られている)を没収し子平を禁錮(室内に閉じこめ外には出さない刑罰)としてしまいました。

しかし、当時、同じ思いを持つ人々も多く、密かに、本を持っている人から借りてそれを筆写しました。今、郷土史料館に展示されているものは、手書きで筆写したものです。ですから大変苦勞して作られた貴重な書物であるわけです。

当時、海外情報が一般庶民にもたらされるのは、ほんのわずかでした。しかし、幕府の要人は、長崎奉行からもたらされる『オランダ風説書(ふうせつがき)』によってある程度の欧米の情報は得ていたようです。(次ページに続く)

(前ページから続く) 一般庶民が本格的に海外の情報を得ることができたのは、嘉永2年(1850年)に嶺田楓江(みねたふじう)が清国(現在の中国)の『夷匪犯疆録(いひんきやうろく)「贖人船に強引に侵略してきた記録」という意味か』という書をもとに書き上げた『海外新話』でした。出版部数は、わずか50部でしたがたちまちのうちに志ある人々の間で話題となりました。

しかし、海外情報が世間に広まることを恐れた幕府は、この本を発禁処分にしてしまいましたが、多くの人々は筆写して海外の情報を手に入れる努力をしました。

では、この『海外新話』には何が書かれていたのでしょうか。それは1840年に清国(現在の中国)で起きたアヘン戦争の最新情報でした。物語風ですが実に具体的に書かれており「清国では、イギリス商人からもたらされたアヘンによって王侯から庶民までそれを吸うようになった」「そのために大量の金が清国からイギリスに流出した」「西洋列強の軍勢力は、大変強くイギリス船からの砲撃により、百雷の音とともに清国の軍船は木っ端微塵(こぼりみじん)に砕け散ってしまった」「何人もの女性がつれ去られたり殺害された」あるいは「清国人の中にはイギリスに味方して情報を流すものもいた」等と中国内の混乱の様子も生々しく記述されていました。多少の誇張もありますが、かなり事実に近い、読んでいて腹立たしくなります。

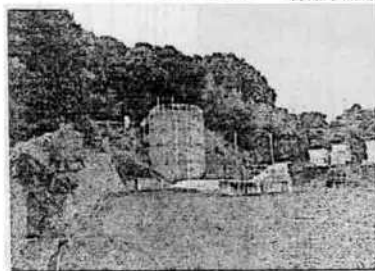
「眠れる獅子」といわれ、尊敬もし、恐れも抱いていた中国の実態を知り、日本人の中にも少しずつ不安を抱き始め、「攘夷(外国人を武力で追い払う)」ではとても太刀打ちできないことを薄々感じ始めた者が少なからずいたはずです。やがて起きた1863年の薩英戦争(生麦事件をきっかけに起きた薩摩とイギリスとの戦争。艦砲射撃で鹿児島が大被害を受ける)、翌年の下関戦争(下関海峡で英・米・仏・蘭の四ヶ国連合艦隊と長州藩が交えた戦争で長州藩が惨敗した)はその不安を嫌というほど思い知らされた事件であったわけです。坂本竜馬は、早いうちから欧米列強の軍勢力を理解していたようです。たぶんそのきっかけとなった情報は『海外新話』からもたらされたものであったと推測されます。世界の動きを素早くキャッチするその能力が維新への大きな原動力となったのではないかと思います。



(嶺田楓江の「海外新話」)

(参考資料:「上海アラカルト」「楓江遺稿」「海外新話」)

川崎にもあった 水力発電所 柿生発電所を知っていますか



柿生発電所

川崎といえますと南部の臨海工業地帯では、東京電力を始めとする沢山の火力発電所が稼働しています。

ところで、川崎最北部の麻生区黒川に昭和37年に開業した「柿生水力発電所」あることはご存じでしょうか。所在地は、麻生区黒川字西谷1544-2に在り、川崎市水道局と県企業庁が所有しています。

機能は有効落差12.2メートル、出力680KW

というとても小さな水力発電所ですが、もともと水道水として津久井湖より受水した水を長沢浄水場に流す途中、黒川の地形上の落差を利用して開始したものです。

こんなに小さくても一般家庭1350世帯の1年分を発電する優秀な発電所です。平成16~17年度には建物と発電設備の改修が行なわれました。



(入り口付近の表札)

郷土の民話と伝説 第1話

すまだ
「角間田ギツネ」 — 麻生区上麻生 —

昔、上麻生の白根耕地（現在の環境センター付近）の三輪町寄りの一角を「角間田（すげ）」と言っていました。そこには狐が住んでいたようで、狐の住みかは、白根耕地と三輪町との境を流れる小川（旧真光寺川と思われま）にかかっていた小さな橋付近であったそうです。ですから「角間田ギツネ」と呼ばれていました。また「隅田ギツネ」とも書かれたようです。

ある日、角間田ギツネが狂ったように吠えたてたそうです。村人たちは、なぜあんなに吠えるのか不思議に思っていました。そうしたら、村の中で大きな火事が起こりました。村人たちは、「ギツネが神様のお告げで事前に村人に危険を知らせてくれたのだ」とたいそうありがたがったそうです。また、天気の変り目や暴風雨等が起こるときもこのギツネは強く吠えたてて村人に危険を教えてくれたそうです。ですから、この「角間田ギツネ」は近くの秋葉神社（浄慶寺境内にある秋葉祠）の使いとして村人から崇め（あがめ）られてきたそうです。古老の話では、昔、提灯（ちようちん）行列のように点々と「ギツネ火」が続くのをこの白根耕地で見かけたそうです。見た場所によって「角間田のギツネ火」「三輪のギツネ火」「白根耕地のギツネ火」などと呼ばれ現在までも伝えられています。このギツネはオスかメスかははっきりしませんでした。隣村の片平の「猿田のギツネ」と恋仲になり、白根耕地などでさかんに逢っていたという話もあります。

昔は、柿生にもたくさん住んでいたようですね。実際に川崎市内にはたくさんのギツネに関する昔話があります。



(浄慶寺の秋葉祠)

(参考資料:「川崎物語集」「川崎地名辞典」)

柿生郷土史料館 活動ボランティア募集

昨年11月に開館した柿生郷土史料館では、活動ボランティアを下記のように募集いたします。学校と地域の連携事業としての柿生郷土史料館の活動を皆様方のお力でサポートしてください。

ボランティアの活動内容

- (活動内容) ・館内の整備、美化 ・郷土史関係図書管理 ・特別展の準備作業
 ・『柿生文化』の発送作業 ・「カルチャーセミナー」の準備運営
 ・館内案内や展示物の説明 ・研究活動や情報交換 ・その他
- (活動曜日) ・毎週1回、土曜日から日曜日のいずれか(今月の開催日:1/9・15・23・29日)
- (活動時間) ・10:00~12:30と12:30~15:00のいずれか

— 初心者歓迎! 皆様のお好きな分野、時間帯にあわせて選択してください —

※申込み ・柿生郷土史料館の開館日にご連絡下さるか、直接ご来館下さい。

(電話: 柿生中学校内、柿生郷土史料館 988-0004)

・柿生中保護者の方は生徒に要項と申込書を配布いたします。

川崎市民劇「枅形城 落日の舞」

平成23年

5月公演

《作：小川信夫 演出：ふじたあさや》

枅形城を築いた武将、稲毛三郎の物語

平成20年に上演されて大変好評でした市民劇『池上幸豊とその妻』に続いて今回は、鎌倉時代に現在の川崎北部で活躍した武将稲毛三郎重成の生涯を劇化し、市民劇として平成23年5月に上演されます。

上演日程

5月 6日 (金)	18:30	多摩市民館
5月 7日 (土)	14:00	多摩市民館
5月 8日 (日)	14:00	多摩市民館
5月20日 (金)	18:30	教育文化会館
5月21日 (金)	14:00	教育文化会館

料金

大人	3000円
(前売)	2500円
学生	1000円

前売券情報

土・日曜の前売
上演チケットの売
り切れが予想され
ます。

柿生郷土史料館にも1月中の9日・15日・23日・29日に前売券を準備します。

柿生郷土史料館 開館のご案内

開館時間

開館：午前10時
閉館：午後 3時

開館日

2月 6日(日)
2月13日(日)
2月20日(日)
2月27日(日)

3月 6日(日)
3月13日(日)
3月20日(日)
3月27日(日)

4月以降の予定は「柿
生文化」33号(3月18日
発行)でお知らせいた
します。

カルチャーセミナー案内

第26回
柿中 **カルチャーセミナー** ご案内
日時 平成23年1月31日(月)
午後6時より
会場 柿生中学校 視聴覚室

テーマ 「川崎たちばなの古代」
一寺院・郡衙・古墳から探る

講師 村田 文夫 氏

(元川崎市教育委員会文化財課長・元日本民家園長)

内容 影向寺・橋樹郡衙遺跡発掘調査
にもとづいた古代川崎の姿を明
らかにする。

カルチャーセミナー案内

第27回
柿中 **カルチャーセミナー** ご案内
日時 平成23年3月15日(火)
午後6時より
会場 柿生中学校 視聴覚室

テーマ 「発見された相模川橋脚から
分かる歴史的事実」
(仮題)

—— 稲毛三郎が妻を悼み建造 ——

—— 源頼朝の死の「謎」を考える ——

講師 大村 浩司 氏

(茅崎市教育委員会社会教育課文化財保護担当)

内容 鎌倉初期の「橋」が物語る歴史
の真実知る。

お知らせ

「柿生文化」は次の場所にも置いてあります。

- ・麻生市民館 ・麻生図書館 ・区役所柿生出張所 ・麻生図書館柿生分館
- ・麻生市民館岡上分館 ・JA川崎 柿生支店 ・JA川崎 東柿生支店
- ・川崎信用金庫柿生支店 ・麻生病院 ・書籍ひろみ(柿生駅前商店街)